

《札幌地域イオル再生事業ライブラリー調査聞き取り》

【話者】 A. Sさん

【実施日】 平成 25 年 1 月 27 日（日）

聞き手 A : まず、おじいちゃんとおばあちゃんはどこで生まれたか、わかりますか？

A. Sさん : うちのはまず複雑なんだけどね。じいさんっていう人はね石狩のK家なんだわ。

聞き手 A : お父さんの親？お母さんの親？

A. Sさん : 父親の親、K. H。大正の始めに亡くなってるの。30代に旭川で盲腸で亡くなってるんだ、うちの親父が3歳くらいのころ。

聞き手 A : その人がおじいちゃんね。

A. Sさん : うん。だけどA家じゃなくK家なんだわ。  
(昔の写真を見せてくれた) 母親はAっていうんだ。

聞き手 A : この方の奥さんは？

A. Sさん : M (名前) っていうんだわ。A. Mっていうんだ。昭和 25 年 8 月 10 日に亡くなったの。

聞き手 A : せっかくですから、お父さん・お母さんの写真とか名前とか詳しくわかるものありますか？(写真を見て) 本当だ。A. Mさん 64 歳。I の母って書いてあるけど。おじいさんのK. Hさんてどこに住んでたかわかりますか？

A. Sさん : 石狩の生振さ〜。その人の弟らは、ワシ知ってるんだ。K. Sさんってね。これがうちの一番古い写真なんだわ。うちのおふくろだとかばあさんとか、うちのHばあさんまで載ってるんだわ。この人がA. Mで、この人がMってね。

聞き手 A : MっていったらK. Kさんたちもおばあちゃんだって言ってたもんね〜。

A. Sさん : 違うよ。うちのHばあさんなんだわ。これがうちのおふくろが嫁に行った時に、深川のAの家に。それでもうちの親父、若いころ割とおしゃれだったんだわ。これ、うちのおふくろだ。なんとなく覚えてるしょ？

聞き手 A : K2さんのことかな？知ってる〜。

A. Sさん : これがばあさんになるんだ、T. Sの。だから、うちらはっきり言ってね、TとAとK

は従兄弟どうして生まれてるわけさ～。こっちがAで、こっちがワシの父親だから。  
あとA. S2の父親は一切自分の母親と写真なんか撮らないんだわ。うちのおふくろの  
母親って人は和人だからね。Tっていう。

聞き手A : (写真を見て) この人とこの人はどういう関係になるの？

A. Sさん : Tだから親子になるしょ。だからうちのおふくろがTからAの家に。

聞き手A : じゃあK2さんの母だ。…でこの人がA. Sさんのお父さんだよね。A？

A. Sさん : A. Iっていうんだ。

聞き手A : …で、こっちにいる口染めてる人は誰だっけ？

A. Sさん : この人はA. Mさん。

聞き手A : こちらにいらっしゃる方は？

A. Sさん : だからHばあさん。こっちの娘さ。こっちはMっていうんだ。うちの親父が大沼に行  
った時にね、M一族ってね、アイヌ語でなんていったかな？地名があるらしい。謂われ  
っていうのかな？

聞き手A : この真ん中におぼっちゃまは？

A. Sさん : これはワシの従兄弟だ。従兄弟で娘だ～。これはワシの従兄弟でK3っていうんだ。こ  
の人がうちの親父の姉になるんだ、姉の子だから。これもそうだし、みんな結核で早く  
死んでるんだ。

聞き手A : この人は？

A. Sさん : これは従兄弟かなんかだわ。大体親戚にはなるんだわ。

聞き手A : 一番端の人は？

A. Sさん : 親父の姉になる。この人はUって深川の人。同じアイヌ系だわ。昭和21年に結核で死  
んでる。

聞き手A : これ、いつごろ写したの？

A. Sさん : 嫁に行くころだからね、昭和9年ころだと思う。うちの親父とね、石狩の生振まで来

てね、見合いに来て決まったらしいんだわ。うちの真面目だからっていうことでね。結納金 20 円持ってきたんだけど、帰りの自動車賃 1 円足りないって、1 円まけてくれってこれ有名な話。当時 19 円っていえば結構な大きなね。昭和 9 年ころの話だからね。1 カ月分のサラリーマンの給料くらいあるんだわ。

聞き手 A : お父さんがお母さんに、20 円結納金持って来たんだ。

A. S さん : だけど深川に帰るのに 1 円足りないから 19 円にまけてくれって。だから昭和 20 年ころまでは、ワシら深川まで米やなんか買いに行ったんだわ。深川まで行ったこと、ワシ覚えてる。

聞き手 A : 生振に住んでて仕事かなんかしてたの？

A. S さん : 「やまご」かなんかでないの。昔のアイヌ系で言ったら。木倒したり。深川だから漁師ではないと思う。

聞き手 A : でも、おじいちゃん生振にいたんですよね？「やまご」してたの？

A. S さん : 「やまご」やら漁師やらしてたんじゃないの。そして盲腸こじらせて、旭川でアイヌのお家で亡くなったって。

聞き手 A : おじいちゃんかい？

A. S さん : 大正 3 年ごろの話だから。こうやってみんなに聞いて歩いてるの？

聞き手 A : 違う。石狩の人に聞いてるの。

A. S さん : もう T. S だって調子悪くて、話なんかできないし。

聞き手 A : ねえ～。でも K2 さんの若いころの写真初めて見たかな？歳いってからはね、何回か。

A. S さん : K2 ったって、うちのおふくろは雑種だからね。この人とも小さいころ一緒にお風呂にも入ったけど、毛もあんまりないしね。孫ばあさんか。昭和 39 年に〇〇歳 (70 歳代前半)。

聞き手 A : お嫁に来たの？

A. S さん : T って若いころから地主だったの。なんだかんだって、もう亡くなったけど。K っていう、うちの先祖は婿に入って T っていう名前になったんだわ。

聞き手A : お父さんは、若い時に亡くなったって言ったっけ？

A. S さん : うちの親父はね、ワシが 20 歳の時だから、熊彫りも一人前になって。

聞き手A : お父さんも熊彫りしてたの？

A. S さん : 熊彫りで大沼で、羽振り良かったんだわ。

聞き手A : お父さん、どこで生まれたんだっけ？

A. S さん : 深川で生まれた。

聞き手A : お父さん、深川で生まれて最初お仕事どんなことしてたの？

A. S さん : なんか知らない。そのうち旭川の熊彫り教えてもらって。うちのおふくろと一緒にあった時は、もう熊彫りやってたから。

聞き手A : 結婚した当初はどこにいたの？

A. S さん : 深川にいて百姓の人らとね、大沼の話があって、まだ昭和 9 年か 10 年ころの話だからね。結構、大沼温泉っていったらね、熊も売れたらしいんだわ。何年かはいたらしい。うちの姉はそこで生まれてるんだ。2 年後にワシが札幌の山鼻っていうところで生まれたんだわ。それからずっと戦争中でも熊彫りやってたんだわ。うちの親父、戦争に行っても他の人から熊仕入れてた。

聞き手A : 大沼に何年もいたの？大沼のホテルかなんか？

A. S さん : 2 年くらい。ホテルじゃなく民芸品売り場みたいなところ。阿寒とかにもあるような。

聞き手A : お母さんも一緒に行って売ってたんだ。

A. S さん : そのころは、まだアメリカと戦争もしてないからね。内地のお客さん来てくれたらしい。その写真もアルバムにあるんだけど…どっかにあるわ。昭和 12 年から、ずっと札幌にいるの、ワシ。

聞き手A : 昭和 12 年生まれ？山鼻で生まれて。おばあちゃんやなんかは口染めてたんだ。

A. S さん : この H ばあさんが一切娘には口染めるなって言ったらしいんだわ。だけどアイヌっていうのはね、男は大体やきもち妬きってのが多いんだわ。そして和人に取られないようにね、子どものときに染めるんだわ。

聞き手A : この方も口染めてるの？

A. S さん : うちのばあさんも口染めてるよ。旭川の人らは、わりと早く口染めるのやめてるらしいよ。旭川のほうも、和人の子どもがたくさんいるんだわ。アイヌの家に捨てにくるんだってな。「育ててください」ってメモ残して置いていくんだわ、和人のこども。だから、旭川でもアイヌの家に違う顔した子供いっぱいいたんだから、当時。

聞き手A : よく聞くよね。そんな話。

A. S さん : 日高はわかんないけど、旭川ではいっぱいいたんだよ。だから、そういう話も…あんたがたきちんと覚えておきな。

聞き手A : お母さんやお父さんたちって、アイヌ語ってしゃべった？

A. S さん : 石狩なら少ないから…わりと浜益あたりに行ったら多いんだよ、アイヌの人。石狩もアイヌの人いたんだけど、日露戦争で日本が勝ってから、石狩や厚田の人らは、漁師の人ほとんど樺太に行ったんだよね。アイヌの人もだいぶ行ったんだ、樺太に。だから石狩にはKとTしかいなかったんだよね。戦後の昭和21年くらいからKの親戚とか引き揚げてきた人いたけどね。でも大体歳は食ってるからね、昭和30年前後には亡くなってよ。浜益は結構いたよ、アイヌの人。うちらのおふくろの姉も嫁に行ってるからね。ワシらも小さいころ行ったことある。

聞き手A : じゃあ、生振と浜益は昔から交流があったんだ。

A. S さん : ひと山越えれば浜益だからね。山入れば近道だってね。そして浜益や石狩って、ニシンが獲れるところだから。

聞き手A : これ (写真)、大事なものを見せてくれてありがとう。

聞き手B : ありがとうございます。

A. S さん : ワシくらいだよ、じいさん写ってるの。Aじゃないんだわ、Kなんだわ。これ婿養子に入った時…昔の人なんて1年も籍入ってない人たくさんいたんだよ。旭川なんか小学校入るまで籍入ってない人、たくさんいたんだよ。役場だってそれ作るのに大変だったんだから。旭川の熊彫りなんて、小学校入るのに籍ない子いっぱいいたんだよ。ワシも75歳になるけどね～。大体うちらのおばあさんの話くらいは聞いてたけどね。

聞き手A : お父さんとかお母さんとか、アイヌの話しました？

A. S さん：うちの親父、わりと北大と付き合いあったんだ。昭和 19 年、まだ兵隊に行ったけど太って旭川で戻されて、植物園に熊いるからもらってくれてね、いた熊殺してね。うちの親父、熊の肉もらってきてね。軍隊から熊一切殺せて言われたから、熊の皮と胃だけは北大で一応資料として残してね。うちの親父が冬にソリで熊の肉持ってきたもん。うちの親父、カムイノミ（「神（カムイ）」を天に送り帰すアイヌの儀式）も満足にできないけど、どぶろくを熊の頭にかけてね、いいところ行けよってね。朝鮮の人はみんな喜んで持って帰るけど、近所の人には熊って言うだけで、普段肉なんて食えないのにいらないうって言ってね。ワシ、小学校 1 年生だから覚えてるんだ。

聞き手 A：熊の肉だけもらったの？お父さん 1 人で？

A. S さん：皮剥がしたやつ。山鼻までソリで、もう 1 人のアイヌ系の M. Y って人と。内臓からなにか裏返しにするんだよね。熱いお湯で洗ったら苦いのが付くからね、生ぬるいのできれいに洗って。それがね、うまいんだわ。

聞き手 A：それ持ってきて、お父さん、親しい人に分けたの？

A. S さん：分けた。近所は遠慮しますって。結構柔らかくって…若い熊だからおいしいんだわ。

聞き手 A：熊の内臓は食べたことないな。

A. S さん：親父が昭和 25 年の時にうちの親父のお寺のところに来て、S（A. S の S）って付けてもらったの。親父はそれからすぐに亡くなったから、ワシは昭和 28 年の 3 月から熊彫りしてるの。親父の熊を売ったところに借りて、それを見本にして作ったの。17 歳のころ。そして、昭和 30 年に（札幌）駅前で熊彫りの実演やってた。そしてこれが一番最初の熊。親父のを見本にやってたわけさ。

聞き手 A：駅前のどこでやってたの？

A. S さん：駅前の…大同生命って知らない？その隣の西越っていうところでやってたの。

聞き手 A：その時、西越の人に実演しないかって言われたの？

A. S さん：そう。19 の時で恥ずかしかったけどね。その時、このばあさんが 1 カ月くらい家で飯炊きしてくれたんだ。

聞き手 A：一人で実演したの？

A. S さん：2~3 人でして、ワシが彫ったやつをうちの姉が売ったり磨いたりしてたんだ。昭和 30 年だよ。

聞き手A : デパートとかにも売ってたの？

A. Sさん : おかげさまで、上野の松坂屋でやったよ。写真もあるけど。

聞き手A : たくさん売れました？

A. Sさん : まあまあ。そのころ食べれない人たくさんいたのに、うちらはイカ飯とか食べれたからありがたかったよ。すすきのや定山溪にも売って歩いたし。

聞き手A : お父さんやお母さんの思い出とか、ありますか？

A. Sさん : やっぱ、おふくろはありがたかった。親父は良い品物は作るんだけど自分で売れないわけよ。朝から夕方まで熊彫って、毛もきちんと彫って、夕方からおふくろが磨いて売りに行くんだ。飛び込みで売って歩いて、きちんと晩には親父の晩酌代や…米とか買ってたよ。うちのおふくろがきちんと行ってくれたから、おかげさんで社会勉強させてもらったよ。

聞き手A : 若いから木彫して、それだけ売れたってことは…。

A. Sさん : それだけいい人に会えたもん。

聞き手A : そしたら差別とかはなかったしょ？

A. Sさん : 差別はあった。だからだらしのない恰好とかもしなかったし、靴もピカピカの履いて。差別されるようなことはしなかった、ワシは。差別されてもそれを乗り越えれないと。まず生活や売ることを考えないと。そうやってきたから。